

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	知覚・認知心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期 火曜2限	教室名	5校舎9階
担 当 教 員	小川 正子	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人の感覚・知覚の起序として、脳の局在性、視覚、と知覚の障害について学ぶ。また、人の認知・思考の機序として問題解決や推論などの思考のプロセスと思考の障害について学ぶ。また、心理学検定対策も同時に行う。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>試験素点70%、出席評価点20%、平常評価点(レポート、授業態度、ノート等)10%とし、優80点以上、良70点～79点、可60点～69点、不可59点以下と評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書:「公認心理師の基礎と実践 知覚・認知心理学」(遠見書房) 参考図書:「認知心理学(有斐閣)」 「心理学検定基本キーワード改訂版(実務教育出版)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>心理学検定の模擬問題を課題とするので、解答したり、不明なところは調べるなどして授業に臨むこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>単に学問として知覚・認知を学ぶのではなく、個別性、一人ひとり異なるものの見方というもの理解してほしい。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	人の感覚現象の名称を覚え、挙げるることができる。		PPT PC プロジェクター	教科書の該当箇所を読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	「感覚の種類と構造・感覚の基本特性①」感覚モダリティ、閾値を学び、感覚の種類と感覚には限界があることを理解する。				
第2回	授業を通じての到達目標	特に眼の解剖と生理を覚え、機能を説明することができる。		PPT PC プロジェクター	振り返りの課題を行うので、復習をしておくこと。	
	各コマにおける授業予定	「感覚の種類と構造・感覚の基本特性②」視覚と聴覚特性について学び、感覚や知覚の統合現象、視覚優位な傾向を理解する。				
第3回	授業を通じての到達目標	心理物理学の法則を挙げるることができる。		PPT PC プロジェクター	参考図書(心理学検定キーワード)の該当箇所を読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	「感覚の種類と構造・感覚の基本特性③」心理物理学、感覚遮断について概説する。心理学実験につながる、測定法について学ぶ。				
第4回	授業を通じての到達目標	錯覚の定義を説明することができる。運動知覚の種類をあげることができる。		PPT PC プロジェクター	心理学検定の模擬問題を行うので、復習をしておくこと。	
	各コマにおける授業予定	「知覚の基本特性①」ゲシュタルト心理学、錯覚、知覚の可塑性、運動知覚、社会的知覚について学ぶ。				
第5回	授業を通じての到達目標	注意の種類、情報処理モデルの名前をあげることができる。		PPT PC プロジェクター	心理学検定の模擬問題を行うので、復習をしておくこと。	
	各コマにおける授業予定	「知覚の基本特性②」知覚における注意機能の役割、情報処理モデルについて学ぶ。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	知覚障害の種類をあげることができる。	PPT PC プロジェクター	脳の局在性について課題を出すので、事前に取り組んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「感覚と知覚の障害」脳の局在性、知覚障害の種類、特徴について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶の内容による分類を説明することができる。	PPT PC プロジェクター	参考図書(心理学検定キーワード)の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「長期記憶」エピソード記憶と意味記憶、顕在記憶と潜在記憶に分類してそれぞれを概説し、刺激や情報の保持に関する要因を学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	作業記憶の役割を説明することができる。	PPT PC プロジェクター	参考図書(心理学検定)の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「短期記憶と作業記憶」作業記憶に関する理論を概説する。近年の記憶研究に関するトピックを学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶の種類とそれぞれの特徴を説明することができる。	PPT PC プロジェクター	模擬問題を事前学習し、授業に臨むこと。
		各コマにおける授業予定	「日常の記憶」自伝的記憶、フラッシュバルブ記憶、目撃証言など、身近な記憶の例について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶と知識構造との関係を理解することができる。	PPT PC プロジェクター	教科書の該当箇所を読み、分からない用語を抜粋しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「意味記憶と概念」意味記憶のモデルについて概説する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶障害の種類とその特徴を結びつけることができる。	PPT PC プロジェクター	教科書の該当箇所を読み、分からない用語を抜粋しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「記憶の障害」記憶に関する脳の局在性と、記憶の障害について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	思考のプロセスの種類をあげることができる。	PPT PC プロジェクター	心理学検定の模擬問題を事前課題とする。
		各コマにおける授業予定	「認知①」思考の定義と、思考のプロセスについて、学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題解決と推論に関する理論をあげることができる。	PPT PC プロジェクター	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「認知②」思考のプロセスのうち、問題解決と推論に関するものについて学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知・思考の障害の種類と特徴を結びつけることができる。	PPT PC プロジェクター	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「認知③」認知・思考の障害の種類と特徴について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学検定の模擬問題を解くことができる。	PPT PC プロジェクター	これまでの授業を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	「まとめ・課題」授業を振り返り、心理学検定の模擬問題を解く。		